

長崎大学教養部所蔵の雲仙植物標本目録

伊藤 秀三・山口 邦子¹⁾

List of plant specimens collected in Unzen, Japan, stored in the Nagasaki University Herbarium

Syuzo ITOW and Kuniko YAMAGUCHI¹⁾

Abstract

Volcano Unzen is located at the center of Shimabara Peninsula, western Kyushu, Japan. It erupted in November 1990 after a 198-year dormant period since the 1792 eruption. The volcanic activity has continued until 1995, and badly damaged plant and animal life of Mt. Fugen-dake, the central cone of the volcano. The present paper is a list of plant specimens collected by the late Saburo TOYAMA (1902-1986), Professor of Botany at the Faculty of Liberal Arts and his students, during the period of 1920'-1970's, from every corner of the Unzen area before the 1990 eruption. The list enumerates 1386 specimens and 406 species, consisting of 371 spermatophytes and 35 pteridophytes.

Keywords: Eruption, Flora, Herbarium, Unzen, Volcanism.

はじめに

雲仙・普賢岳は、長崎県南高来郡小浜町にあり、島原半島のほぼ中央に位置する。有史以来2回、1663年(寛文3年)、1792年(寛政4年)に噴火し溶岩を流出している。1990年11月17日には198年振りに3回目の噴火をした。以来、溶岩の噴出が続き、南東側～東側～北東側にかけては幾度も火砕流が流れ下り、四方には火山ガスと火山灰を振りまき、植生に大きな被害を与えている。1995年1月現在、新生の溶岩ドームは普賢岳(海拔1346m)をしのぎ、なおも高さを増して、1994年末には1500mに達し

1) 長崎大学教養部昭和57年度研究生
現:長崎県佐世保市 (株)エス・イー・エー創研勤務

ている。

噴火以前の植物については、古くは天然記念物としての記録（長崎県，1928）や竹内（1939）による報告があるものの，詳細は外山三郎（1940，1957，1980）による長崎県植物目録の中の記述のみであった。最近では中西・江島（1989）の記録があるものの，標本にもとづいた目録はまだ作成されていなかった。今となつては，雲仙全域の噴火前の植物の復元的記録は不可能であるが，わずかに噴火前に採集された植物標本だけが，これを可能とする。

本稿は，噴火前に採集され長崎大学教養部標本室に収蔵されている標本のリストである。ここに収録する標本は，教養部の初代の植物学教授，外山三郎（1902生-1986没）が，長崎女子師範学校ならびに長崎師範学校（1928-1949），長崎大学学芸学部ならびに教養部（1949-1967）の在職中に採集したもの，及び同教授の教え子達によって採集されたものである。その標本数は1380点に達する。

本稿では，科の配列は外山三郎（1980）長崎県植物誌に従った。個々の標本に関しては筆者らは同定を行わず，従つて，基本的にはラベルに記入されている学名を目録作成に採用した。それらは，外山（1980）に採用されている学名と同じである。科の中の種の配列順序は，採用した学名のアルファベット順とした。これらの標本に加えて，伊藤・波田（1980）の原生沼の標本を追加した。

採集地名として，単に「雲仙」または「雲仙岳」と記してあるものでは地名を省略し，詳細な地名（例：普賢岳，宝原など）が記してある標本では，それらを採録した。雲仙と言う地名がどの範囲を指すかは明確ではないが（図1），本稿では雲仙温泉街の周辺から上方の地域，すなわち，古湯と新湯の温泉街，地獄地帯（硫気孔地帯），原生沼，絹笠山，白雲の池，札の原，別所（稚児落しの滝含む），小地獄，宝原（ほうばる），高岩山，矢岳，池の原，石割山，吹越，仁田峠*，野岳*，あざみ谷**，妙見岳*，国見山*，鬼人谷（きじんだに）**，風穴**，鳩穴**，霧水谷**，普賢池**，普賢岳**をさす（図1）。（田代原は，これらの地域から北に約4キロ離れた位置にある。そこでだけで採集された種の標本は，本稿には収録されていないが，上記の産地に加えて田代原でも採集されている種は，産地名にあげた。）（1994年末現在，上記の地名のうち，**印の地域では顕著に，*印の地域ではかなりの程度に，溶岩噴出または火山灰・火山ガスによる植物への影響が認められる。）

産地名に続いては，標本採集者の姓と番号を記した。外山三郎氏の姓は「T」と略記した。標本室所蔵のほとんどの標本には採集者が付した固有の標本番号がなかったので，整理の都合上，筆者らが番号を付した。採集者の姓に続く番号は，この標本番号である。なお伊藤・波田（1980）の標本番号は固有の番号である。将来，雲仙産の植物研究には，これらの標本の検討が不可欠となるであろう。

筆者らは、本稿に収録した植物標本が、噴火が鎮静化した後の雲仙の植物調査の基礎資料となることを念じている。

追加記録について

本稿は植物目録としての役割をも合わせ持つであろう。しかし筆者らが噴火前に行った植生調査の記録（伊藤 1974, 1977；未発表記録）および中西（1988）、中西・江島（1989）の記述とこの標本目録をつきあわせて見ると、かなりの数の種が欠落していることに気づく。その中には雲仙で普通に見られる種、たとえば、モミ、ヤブツバキ、ナガバモミジイチゴなども含まれている。これらを本稿の末尾に別記し、追加記録としておく。



図1 雲仙地形図

文 献

- 伊藤秀三 1974 九州西部森林植生の植物社会学的研究 II. アカガシおよびモミ自然林について. 長崎大学教養部紀要 自然科学 15:59-74.
- 伊藤秀三 1977 長崎県の植生. 147頁, 長崎県.
- 伊藤秀三・波田善夫 1980 雲仙・原生沼の高等植物目録. (伊藤秀三編) 雲仙・原生沼の研究 57-62. 長崎県環境部.
- 長崎県 (編) 1928 長崎県の指定史跡名勝天然記念物. 79-88. 長崎県.
- 中西弘樹 1988 長崎県植物誌ノート(2) 長崎県生物学会誌 33:11-15.
- 中西弘樹・江島正郎 1989 雲仙岳の生物. 江島正郎 (編) 長崎県の生物 311-314. 長崎県生物学会.
- 竹内 亮 1939 雲仙嶽の植物景觀に就いて. 地理学評論 15(4):13-35.
- 外山三郎 1940 長崎県植物誌. 1-74pp.+地図5葉+写真4. 長崎県博物研究会.
- 外山三郎 1957 長崎県植物誌. 164pp. 長崎県理科協会.
- 外山三郎 1980 長崎県植物誌. 312pp. 長崎県生物学会, 長崎県理科協会.

(1995年1月27日受理)